

世界経済・金融市場動向(日本)

先月の振り返り

01 日本株式市場

9月の日経平均株価は上昇しました。日本のコロナ感染者数の減少および新政権による政策期待を背景に大幅高、一時30,000円を上回りました。月末にかけては、中国不動産市況の不透明感や海外金融緩和の縮小、サプライチェーンの混乱などに対する懸念が重石となり下落しました。

02 日本債券市場

9月の日本長期金利は上昇(価格は低下)しました。インフレ進行および米国金融緩和縮小を受けた海外金利の上昇や新政権が積極的に財政政策に取り組むとの思惑などから3カ月ぶりの水準まで金利は上昇しました。

経済金融環境

01 日本経済環境

海外では高インフレが懸念されるものの、日本の物価動向は引き続き力強さに欠けます。日本の企業センチメントは、製造業がコロナ前を上回る水準で推移する一方、サービス業はまだ50を下回る水準です。

今後の見通し

01 日本株式市場

中国や米国などの海外における景気減速の顕在化や金融政策の動向により、下落するリスクには引き続き注意が必要と考えます。一方で国内では新型コロナウイルスの感染が落ち着きをみせる中で、経済活動再開や新政権による景気刺激策が相場を下支えすると見込まれます。

02 日本債券市場

海外ではインフレの影響や中央銀行の金融政策に動意が見られることから、外部要因で一時的に金利が上昇する局面がみられる可能性があります。しかし、国内物価事情は引き続き上昇が限定的であるため、国内金利上昇は継続しないものと見込まれます。

(チャート期間:2018年10月~2021年9月)



世界経済・金融市場動向(米国)

先月の振り返り

01 米国株式市場

9月のS&P500指数は下落しました。雇用統計が債務上限問題を巡って政策が停滞したことや、中国の不動産業界の債券デフォルト問題がリスクセンチメントを悪化させました。月末には7月以来の安値を更新し、指数4,300ポイントに迫る値で取引を終えた。

02 米国債券市場

9月の米国長期金利は上昇(価格は低下)しました。9月FOMCにおいて、11月よりテーパリングを行う可能性を使役したことや資源価格上昇、グローバルにおける金融政策縮小の動きが手掛かりとなりました。

経済金融環境

01 米国経済環境

米国では原油価格などの資源価格の高騰が影響し、物価の高止まりが続いています。米国の企業センチメントは、製造業および非製造業ともにピークアウト感がみられます。新規受注は高水準を保っています。

今後の見通し

01 米国株式市場

経済の減速や雇用の戻りが鈍化する中でFRBによるテーパリングが意識されることから、下落する局面があると考えます。一方で、新型コロナウイルスの経口薬の認可や財政政策が発動された場合は反発または底堅い推移を見込みます。

02 米国債券市場

資源価格の高騰や期待インフレが高止まりする中で、必要以上の緩和はインフレを助長するリスクがあることから、先月のFOMCで表明された通り来月からテーパリングを開始すると思われることから、金利は上昇傾向を見込みます。ただし、株式市場が大きく調整した場合は金利は低下すると思えます。

(チャート期間:2018年10月~2021年9月)

